
古賀市環境審議会（第36回）議事録

1 期日 平成29年1月11日（水曜日）14時30分から16時40分まで

2 場所 古賀市役所 中会議室（第2庁舎2階）

3 出席委員（9名）

会長	薛 孝夫	委員	渡 久行
副会長	清水 佳香	委員	中屋 允雄
委員	谷本 潤	委員	柴田 幸次
委員	仁科 信春	委員	吉見 一郎
委員	鬼倉 徳雄		

4 欠席委員（5名）

委員	島岡 隆行	委員	水上 シゲ子
委員	二渡 了	委員	三輪 素子
委員	嶺井 久勝		

5 傍聴者数 なし

6 事務局出席者職氏名

市民部長	智原 弘文	環境課長	智原 英樹
環境整備係長	長崎 英明	ごみ対策係長	矢野 貴宏
業務主査	山鹿 千鶴	主任主事	吉澤 祥子

7 議題等

- ・平成28年版古賀市環境報告書（案）について

8 配布資料

（事前配布） 次第
平成28年版古賀市環境報告書（案）
（当日配布） 第2次古賀市環境基本計画の修正点

1. 開会あいさつ

- ・部長よりあいさつ。

2. 議題等

(1) 平成 28 年版古賀市環境報告書（案）について

- ・配布資料に基づき、平成 28 年版古賀市環境報告書（案）について事務局より説明。
- ・質疑・応答。

○清水副会長： [5 ページ・環境像を実現するための体系的な取組]

第 2 次古賀市環境基本計画のどの部分にあたるのか。

第 2 次古賀市環境基本計画の計画期間は 10 年、実施計画は 5 年を 1 期とされていたと思う。平成 27 年度は、前期実施計画の年のうち 2 年目にあたるが、計画を推進していくにあたって留意した点を 7・8 ページに記載しているのか。

●事務局： 5 ページに記載している部分は、第 2 次古賀市環境基本計画の 54・55 ページにあたる。

7・8 ページにおいては、平成 27 年度に実施した施策のうち、注目すべき取組について抜粋して記載している。第 2 次古賀市環境基本計画の施策については強弱や濃淡はあるが、基本的にはすべて実施していきたいと考えている。

○清水副会長： [9 ページ～・各施策内容における取組状況について]

すべての施策について実施されているかを確認するには、9 ページ以降の内容という説明だったが、10 ページなどで[指標・平成 27 年度末現在の状況]欄が“-”となっているものはどう評価していくのか。

●事務局： [指標・平成 27 年度末現在の状況]欄については、数値等で記載できるものは記載している。

○清水副会長： 前期実施計画期間である 5 ヶ年間での到達目標等が報告書には記載されていないのではないかと。1 年間のスケジュール等は記載されているが、5 ヶ年もしくは 10 ヶ年の取組の達成状況はどう把握していくのか。

●事務局： 10 ヶ年の目標については、[指標・目標]欄に記載している。

○清水副会長： 10 ヶ年の目標達成までのそれぞれの実施計画はあるのか。

●事務局： 環境報告書については、前年度（平成 27 年度）に実施した取組、その取組についての課題、課題を踏まえて次年度（平成 28 年度）にどうつなげていくかというところを記載している。

5 ヶ年の中間総括は、中間見直しの際に行いたいと考えている。

○柴田委員： 短期・中期・長期計画のそれぞれの目標がわかりづらいのではないかと。中期の 5 年での目標が設定されているのか。

それぞれの目標達成状況などをまとめたページがあれば、わかりやすく

なるのではないか。

- 薛 会 長 : 中期・長期の目標がわかりやすいもの、そうでないものがあるだろうが、単年度の状況だけでなく、最終目標に向けての達成状況などを記載するよう改善できないか。
報告書の見せ方として、最終目標に向けての達成状況をわかりやすく表現するにはどのような方法がいいか。
- 柴田委員 : “指標”を1ページにまとめて掲載し、達成状況も記載してはどうか。
- 仁科委員 : 施策のうち、「事業終了したもの：A」、「事業途中のもの：B」、「事業実施できていないもの：C」などに分類して評価してはどうか。
- 薛 会 長 : 環境報告書の様式を昨年度から変更して改善された点多々あるが、全貌がわかりにくくなった部分もある。
3段階評価しにくいものもあるだろうが、目標の達成状況をわかりやすく伝える努力はしてもらいたい。
- 事 務 局 : 第2次古賀市環境基本計画期間の2年目、環境報告書が現在の様式になってからも2年目であり、単年度の報告をすることに特化してしまった部分もある。
第2次古賀市環境基本計画については、5年で見直しをすることとしているが、平成29年、30年は前期計画期間の終盤となっている。
今年度については現在の様式とさせていただき、平成29年、30年については、ご提案いただいた内容を参考に前期5年間の進捗状況については総体的に把握できるような内容としていきたい。
- 鬼倉委員 : 「A」、「B」、「C」による3段階評価は、とてもいい方法だと感じている。現在はまだ計画期間2年目の時期でもあり、「B」や「C」が多い状態かもしれないが、10年後に「A」、「B」「C」の比率がどう変化していくのか、現在から準備しておくことは非常に有効であると思う。

[6 ページ・第2次古賀市環境基本計画の推進体制]

“古賀市環境審議会”、“古賀市環境政策調整委員会”という2つの委員会があり、うまく運用されており、感心している。できれば、委員会が年に何回開催したかなどの記録を残すことも大事だと思うので、どこかに記載してもいいのではないか。

- 薛 会 長 : 古賀市環境政策調整委員会の構成や開催頻度はどうなっているのか。
- 事 務 局 : 古賀市環境政策調整委員会は、部長、関係課長で構成される庁内組織であり、環境審議会開催前に、審議予定の議題について意見をもらっている。
- 薛 会 長 : [図3 第2次古賀市環境基本計画の推進体制]で、“古賀市環境審議会”と“古賀市環境政策調整委員会”とで“報告”、“提言”をすることとなっているのか。
- 事 務 局 : “古賀市環境審議会”と“庁内(市)”とで“報告”、“提言”をすることとしているので、図を修正する。また、委員会の開催頻度についても追記させていただく。

- 清水副会長： 古賀市環境政策調整委員会は、環境審議会開催前に審議される議題についての意見をもらっているとのことだが、環境審議会で出された意見をフィードバックする機会はあるのか。
- 事務局： 昨年度の環境審議会の議題であった「平成27年版環境報告書」については、環境審議会、環境政策調整委員会での意見、事務局の対応等をまとめ、環境政策調整委員会委員へも完成した「平成27年版環境報告書」とともに配布している。
- 吉見委員： [7ページ・エコドライブ教習会]
 “※燃費改善効果：通常運転 17.4 km/ℓ → エコドライブ 22.5 km/ℓ … 34.5%燃費が向上”と記載しているが、計算をしても“34.5%”とはならないのではないか。
- 事務局： “通常運転 17.4 km/ℓ”、“エコドライブ 22.5 km/ℓ”は全参加者の平均値を記載し、“34.5%燃費が向上”は参加者ごとの燃費改善率の平均値を記載しているため、わかりにくくなっている。わかりやすいように修正する。
- 薛会長： 修正するよりは、“34.5%燃費が向上”の部分は削除した方がわかりやすいのではないか。
- 事務局： “34.5%燃費が向上”の部分は削除する。
- 仁科委員： [10ページ～・各施策内容における取組状況について]
 [指標・平成27年度末現在の状況]欄は、数値化できるもののみ記載しているとのことだったが、“-”となっているものは市民が見たときにわかりにくいのではないか。事務局にて検討してほしい。
 [指標]欄がすべて2行になっているが、10ページのように指標が1つしかない項目は2行目を削除してはどうか。
 [取組・スケジュール]欄に、“平成28年度(予定)”とあるが、平成28年度も終盤の時期であり、すでに平成28年度の事業が終了している取組についても“(予定)”と記載する必要があるのか。標記については事務局にて検討してほしい。
- 薛会長： 本来であれば、平成27年度実績、平成28年度予定を記載する報告であるが、発行が遅れている。
 1ページの人口等は平成28年9月末現在の数値が記載されているが、他にも平成28年度の新しい数値などが入っている箇所はあるのか。
- 事務局： 人口、世帯数のみが平成28年度の数値となっている。
- 清水副会長： なぜ人口、世帯数のみが平成28年度の数値となっているのか。
- 事務局： 以前の審議会において、最新の数値がわかる場合にはその数値を記載した方がいいとの意見があり、人口、世帯数は平成28年度の数値を記載している。
- 薛会長： 全体を通して見たときに、[取組・スケジュール]欄の“平成28年度”に“(予定)”という記載があってもなくても大きく変わらないと思う。事務局の環境報告書のあり方を定めて、検討してはどうか。

- 鬼倉委員： [取組・スケジュール]欄の矢印については、平成 27 年度の実績に応じて矢印の長さ等が変わっているのであれば、“平成 28 年度（予定）”の“（予定）”という文言は削除し、矢印を「実績：実線」「予定：点線」などに分類してはどうか。
- 柴田委員： “スケジュール”なので、“（予定）”という文言はいらないのではないかと。
- 事務局： 平成 27 年度を取組を報告する報告書であると整理させていただき、データについては平成 27 年度末の数値で統一し、“平成 28 年度（予定）”の“（予定）”という文言は削除させていただく。
- 薛会長： 発行は平成 28 年 12 月でいいのか。
- 事務局： 発行は実際に発行する日付となるので、平成 29 年 1 月以降となる予定である。
また、[指標・平成 27 年度末現在の状況]欄が“-”となっているものについても、標記できるものがないかどうかを事務局にて検討させていただく。
- 鬼倉委員： 20 ページのように“中間見直しにおける市民アンケート調査を 29 年度に実施予定”など、簡単な文言でもいいと思う。
- 薛会長： 10 ページのように[指標・目標]欄が“平成 29 年度”など時期が記載されているものについては、“準備中”などの文言でもいいのではないかと。
- 事務局： 今頂いた意見も含めて検討させていただく。
- 柴田委員： [20 ページ・薬王寺水辺公園及び小学校内ビオトープの計画的な保全と活用]
[指標・平成 27 年度末現在の状況]欄で、“ビオトープを生かした取組数”は 9 回となっているが、[取組 1]の回数か。
- 事務局： [取組 1]、[取組 3]の合計数を記載している。
- 仁科委員： [63 ページ・古賀市版「環境カウンセラー」の登録制度確立と人材育成]
昨年度も発言をしたと思うが、1 年以上何もしていないということか。
夏に開催された講演会でもこの制度について話をしたが、環境省制度のように難しいものではなくてもよい。古賀市内には環境に詳しい人はすでに多くいる。誰かに推薦をされた、「ぐりんぐりん古賀」メンバーなど、環境保全団体において一定以上年数の活動をしていることなどを要件とし、敷居を高くせずに、多くの市民に参加してもらえることをめざしてはどうか。簡単に制度はできるのではないかと。
環境カウンセラーとして仮にレベルが低いようであれば、一段レベルを上げた「環境マイスター」をつくるなど、修正していてもいいのではないかと。
- 事務局： 制度をつくるだけでなく、環境カウンセラーが活動する場についても含めて検討をすすめてきたため、時間を要してしまった。
- 清水副会長： 62 ページのように事業所向けの環境教育となると、現在活動している人数は少ないかもしれないが、学校向けということであれば授業に出向いている市民の方はすでに何人もいます。制度としてオープンにはなっていない

ないが、現実的にはまわっていると思う。

- 事務局： 制度の運用等について研究している段階にある。
- 鬼倉委員： 近隣の市町村で参考にしてはどうか。福津市は郷育カレッジに講師となる人材がおり、学校などのマッチングも非常にうまくいっている。
- 中屋委員： 環境関係の資格を持っている方も多い。そういった方の活用についても検討してはどうか。
- 仁科委員： 最初から完璧な制度はないと思う。見直しを重ねていくことも重要だろう。
- 事務局： 環境カウンセラーについては、先送りにしてしまっている部分もある。次回審議会では、イメージ等について報告できるようにしていきたい。
- 中屋委員： [65 ページ・環境保全に関する交流の場づくり]
平成 28 年 12 月 3 日に「ふくおか水もり自慢！」が古賀市で開催された。福岡県主催の事業だったが、県内の 42 団体が活動発表を行った。42 団体のうち 13 団体が古賀市の団体で、「ぐりんぐりん古賀」の会員が関わる活動が多かった。今回は自然環境分野だったが、「ぐりんぐりんフェスタ」などで、生活環境分野も含めて市内で環境保全活動に関わる人たちの報告会や意見交換ができればいいと考えている。
- 薛会長： 環境フェスタについては、現在も市が関わっているのか。
- 事務局： 「ぐりんぐりん古賀」には市から補助金を出しており、「ぐりんぐりんフェスタ」については「ぐりんぐりん古賀」の事務局として関わっている。
- 薛会長： 「ぐりんぐりんフェスタ」での意見交換会等の実施も検討してはどうか。
- 事務局： 現在、「ぐりんぐりん古賀」総会後には意見交換会などを実施している。「ぐりんぐりんフェスタ」においても意見交換などができないか検討させていただきたい。
- 仁科委員： [取組 2・スケジュール]欄の“関係者協議”は実際に行ったのか。
- 事務局： 実施できていない。
- 薛会長： 実際には、何も取り組んでいないということはないと思う。
- 清水副会長： すでに交流の場は構築されていると思う。「ぐりんぐりん古賀」は誰でも入会できる組織でもあり、会員と市との意見交換等もできているのではないか。
- 薛会長： 考え方を変えれば、すでに達成できているとも言えるではないか。
- 事務局： [取組 2]の記載内容については修正させていただく。
- 清水副会長： 福岡県が委嘱する「福岡県地球温暖化防止活動推進員」の活動はどこかに記載されているのか。「まつり古賀」でも環境課ブースでは一緒に活動するなど、市と連携した活動も多いと思う。
- 事務局： [38 ページ・家庭でできる省エネルギー行動の効果検証]の取組において、特に連携して活動しており、この部分に記載している。
- 柴田委員： [37 ページ・再生可能エネルギー導入の推進]
[取組 2・平成 27 年度における課題、及び課題に対する対応策]欄に記載があって、[スケジュール]欄に何も記載がないのは違和感がある。

- 事務局 : [取組 1]の導入可能性調査ができずに情報収集にとどまったため、導入可能性調査結果をもとに実施するはずだった[取組 2]の記載ができなかった。
- 吉見委員 : ここで想定されていたのは、指標となっている太陽光発電のことか。
- 事務局 : 太陽光だけでなく、水力なども検討の対象であると考えている。
- 鬼倉委員 : [取組 1]が終了しなければ、[取組 2]が実施できないということであれば、[取組 2・平成 27 年度における課題、及び課題に対する対応策]欄には何も記載せず、[取組 2・平成 28 年度以降の取組について]欄に“取組 1 の情報収集、分析終了後に取組を開始する（年度未定）”等を記載してはどうか。
- 事務局 : ご意見どおり、修正させていただきたい。
- 薛会長 : 全体を通して言えることだが、[取組・スケジュール]欄の記載が必要ないものについては、欄を削除してはどうか。
- 事務局 : ご意見どおり、全体的に修正させていただきたい。
- 柴田委員 : **[62 ページ・事業者向け環境教育の充実]**
前期実施計画で実施しない取組についても記載する必要があるのか。
- 事務局 : [62 ページ・事業者向け環境教育の充実]については、前期実行計画で記載できるものがなかったため、こういった記載となっているが、取組内容も決まっていないため、[取組 1]は削除し、[施策内容に対する進捗状況及び今後の動向]のみ記載するよう修正させていただく。
- 仁科委員 : **[66 ページ・古賀市職員の環境配慮行動の実践]**
“消灯の励行”、“階段使用の奨励”など職員が取り組む内容が記載されているが、職員向けに調査など実施したのか。
- 事務局 : 職員が取り組む内容の周知にとどまっている。
- 仁科委員 : 平成 28 年度までの取組となっているので、簡単なアンケート調査でもいいので、実施した結果を来年度の環境報告に記載してはどうか。
- 事務局 : 夏季の取組については職員向けのアンケートを実施する準備をしている。
- 清水副会長 : **[79 ページ・大気環境]**
一般大気測定局が古賀市にされていないのは、何か理由があるのか。
- 事務局 : 一定のメッシュ区画ごとに設置されている。1 測定局廃止された箇所があり、古賀市内の設置について要望する予定としている。
- 吉見委員 : **[42 ページ・公共施設における再生可能エネルギー導入の推進]**
[取組 1]の古賀水再生センターの消化ガス発電設備の導入については、エコテクノ 2016 でも成果報告をされ、水再生センターのメタンガスを民設民営事業者売却するとの新聞発表もされている。古賀市が誇れる事業であるため、もっと市民にアピールする内容としてはどうか。
- 薛会長 : 平成 28 年度は具体的にどのような取組をしているのか。
- 事務局 : 業者との契約が終了した段階で、実際にはまだ動き出している段階ではない。平成 29 年度以降に設置が完了する予定である。

担当課である下水道課には、記載内容の変更ができるか確認をさせていただく。

来年度の環境報告書では、主な取組として掲載させていただきたい。

- 中屋委員 : [23 ページ～・生活環境苦情などに対する適切な対応]
[取組 1・平成 27 年度に実施した取組]欄に“水質汚濁 (14 件)”と記載されているが、主な原因は事業所廃液、家庭排水のどちらが多いのか。
- 事務局 : 油分等の敷地外への流出等が多い。
- 中屋委員 : [74 ページ・古賀市内河川水質調査]
[表 10 河川水質調査結果 (平成 27 年度)]の大腸菌群数について、5 月の数値が高い要因はわかっているのか。
- 事務局 : 気温や雨水の流れ込みなど、様々な要因が考えられる。
- 薛会長 : 昨年度の審議会において、鬼倉委員が水質について発言されていたと思うが、考えられる要因はあるか。
- 鬼倉委員 : 季節に左右される数値ではある。これまでのデータがあるのであれば、周期的な要因や対応策などもわかってくるのではないかと。データはきちんと把握していく必要はある。
- 事務局 : データについては、ホームページにおいても過去のものを含めて公表している。
- 渡委員 : [16 ページ・森林・松林の適正な管理と保全]
福岡県森林環境税により“荒廃森林再生事業”を実施しているが、平成 29 年度で終了予定となっている。継続した取組が必要なため、福岡県へ継続してもらえるよう市から要望してほしい。
近隣では薬剤散布をしても松枯れしてしまうところもあるが、古賀の松林はほとんど松枯れをしていない。古賀市の対応がいいのだと思うので、今後も現在の取組の継続を要望したい。
- 事務局 : 渡委員の意見については、担当課へ伝えさせていただく。
- 薛会長 : 意見も出尽くしたようなので、事務局で本日の意見を集約し、出来る限り審議会委員の意見を反映・修正して、環境報告書を作成していただきたい。
修正した環境報告書の確認はどのようにするのか。
- 事務局 : 環境報告書の最終確認については会長に一任したいと考えるが、いかがか。
- 薛会長 : 本日のみなさんの意見は十分に理解できているので、最終確認は私に一任していただきたいが、それでよろしいか。

【異議なし】

3. 事務局からの連絡事項

- ・会議録は作成次第、委員全員に郵送し、内容等に誤りがないか確認をお願いしたい。訂正等があれば修正し、会長承認後に会議録を決定させていただく。
- ・報償・費用弁償については、2月の振込を予定している。マイナンバー届出をまだ提出されていない委員においては、郵送での提出をお願いしたい。
- ・第8期古賀市環境審議会委員の就任について、公募以外の委員へは意向調査をさせていただいた。次期も委員を引き受けてくださる委員へは、改めて承諾書の提出を依頼する予定としている。

4. 閉会
